広報日造協

緑豊かでゆとりと潤いのある快適な環境と美しい景観の創造をめざして

# 日造協ニュース

Japan Landscape Contractors Association NEWS

2024. 2 月
通巻 第 599 号

発行：一般社団法人日本造園建設業協会　編集：広報活動部会　http://www.jalc.or.jp
〒113-0033　東京都文京区本郷 3-15-2　本郷二村ビル４階　TEL:03-5684-0011　FAX：03-5684-0012

本号の主な内容

２面 植栽基盤診断士認定試験を実施　全国で活躍する資格者が 1,800 名間近
植栽基盤整備関連の書籍を大幅改訂／街路樹剪定士指導員研修会 群馬で開催
【学会の目・眼・芽】九州は温暖化の最前線、悩ましいクスノキとシマトネリコ
（公社）日本造園学会理事　九州大学芸術工学研究院教授　朝廣 和夫
３面 技術者制度の見直し方針で令和６年度から実施
造園施工管理技術検定　１級受検資格は実務問わず「19 歳以上」に
【日造協会員の SDGs】地域の在来種を活かした海浜の飛砂防止はまみどり工法
４面【ふるさと自慢】ガイドブックに載っていない２つのホタテと釜臥山スキー場
青森県支部　山口 英勝（㈱ヤマカツ）
【緑滴】庭　宮崎県支部　永岡 里佳（㈲昭和造園土木）

能登半島地震においてお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様と被災地の一刻も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

## 4年ぶりに開催 参加で賑わう 2024 年新年造園人の集い

2024 年新年造園人の集いの様子

2024 年新年造園人の集いは１月５日㈮、東京都港区高輪の品川プリンスホテル「プリンスホール」で開催され、約 550 名が参加して盛大に行われた。

コロナ禍で中止していた新年造園人の集いが４年ぶりに開催された。

集いは、世話人を代表し、髙梨雅明（一社）日本公園緑地協会会長は、「能登半島地震によって亡くなられた方々のご冥福を祈念し、被災された方々へのお見舞いを申し上げます」と冒頭に述べ、「４年ぶりの開催となり、なかなかお会いできなかった方々とお会いすることができた。この間、世の中が大きく変わり、行動変容やさらなるデジタル化など、国際競争時代が到来し、GX、ネイチャーポジティブなどさまざまな課題が山積し、流域治水、子育て支援、地震防災対策においても、緑豊かで安全で美しい空間づくり、環境づくりを進めていく上で、私たち造園に携わる者の力の発揮が求められている。2027 年には国際園芸博が日本で開催される予定であり、時代を切り開くような新たなチャレンジを皆さんとともにアピールしたい」との旨を述べた。

次いで、柳井重人（公社）日本造園学会会長は、「昨年は関東大震災から 100 年で、造園はその復興に貢献し、その後の震災においてもさまざまな役割を果たしてきた。学会はとっつきにくく思われる方もいらっしゃるかもしれないが、学術、技術、政策は深く関わっており、いずれが欠けても成り立たない。来年学会は創立 100 周年を迎える。さらなるご指導、ご協力をいただきたい」と述べた。

国土交通省からは、伊藤康行都市局公園緑地・景観課長が、「まちづくり GX として、気候変動や生物多様性への対応など地球環境問題の解決やウェルビーイングの向上を図るために都市の緑の量と質の向上を官民で進めるべく、予算、税制、制度の検討を進めている。2027 年の国際園芸博覧会は、ドーハで開催中の博覧会でも PR を行っている。開催に向けてご協力をお願いしたい」と述べた。

髙梨雅明会長　柳井重人会長　伊藤康行課長
植田明浩審議官　和田新也会長　金清典広会長

環境省からは、植田明浩大臣官房地域脱炭素推進審議官が、「カーボンニュートラル、ネイチャーポジティブ、サーキュラーエコノミーの発展と統合が、環境省の重要な分野になっており、造園職がこの３つの分野にも関わっている。私自身が 2022 年に地域脱炭素推進審議官グループが発足し、その責任者になっているのが分かりやすい事例だ。また、自然環境局では 30by30、PECM、それを実現させるための自然共生サイトの取り組みが始まり、さらに、脱炭素都市づくり大賞を創設、国土交通省と連携し、間もなく結果がでる。産官学を問わず造園人が求められるようになっており、皆様のさらなる活躍に期待したい」と述べた。

その後、「2024 年今年期待の造園人」の受賞者５名を紹介、抱負が語られ、関係団体の代表者による鏡開きを行い、和田新也日造協会長が産業界を代表して「北陸の方々の復興、2024 年問題への対応などの課題もあるが、皆様のお話にあったように造園界には多くの期待が寄せられている。そこで「造園人頑張るぞ」で杯をあげたい」と、乾杯の挨拶を行い祝宴となった。

集いでは、途中、造園関連団体の代表があいさつ。金清典広（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会会長のあいさつで閉会となった。

## 樹林

（一社）日本造園建設業協会理事
山陰緑化建設㈱　西谷 勝之

### まちの緑と地域の合意形成

本年元日の能登半島地震で亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表し、被災された地域の皆さまにお見舞いを申し上げるとともに一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

◆

さて、昨年秋に一般の方々にまちなかの緑の良さや面白さを実際に見て触れて知ってもらおうと、地元の街路樹や公園を巡るガイドツアーを開催しました。

ツアーに先立ち、市民に緑の良さをいかに分かりやすく面白く伝えるか、そのスキルを学ぶ講習会を事前に開催しました。

講師には仙台で街路樹のガイドに取り組んでいる当協会技術副委員長の石出慎一郎氏をお招きし、自然観察ガイド経験豊富で地元の動植物の生態に詳しい大山自然歴史館課長の矢田貝繁明氏にも加わっていただきました。

受講者には業界内部だけでなく、国や県、市の公共樹木の管理者やまちづくりに関係する方々にもご参加いただきました。

その後約１カ月、若い人たちが中心になって企画を練りあげ、資料を作成してガイドツアーを挙行。地元メディアで紹介されたこともあって参加者は募集開始からすぐに定員を上回る盛況でした。

◆

当日は出発前にまちなかの緑の持つ機能や魅力、現状と課題などについてオリエンテーションを行った後に大型バスに乗って出発、秋晴れのもと１日かけて楽しみながら多様なまちの緑をガイドすることができました。

参加者のアンケート結果からは、「街路樹への興味が湧き勉強になった」「また開催してほしい」といった声が多く聞けるなど大変好評で、その後も連絡をいただいてボランティアを始めたいという方も出てきました。

事前の講習会に参加していただいた行政の方々からも「新しい視点を持つことができた」といった感想をいただき、ご相談をいただくような動きもあります。

◆

話は変わりますが、昨年の暮れに NHK の「クローズアップ現代」の番組開始 30 周年の特別番組が放映されました。

この 30 年間で危機的に悪化の方向に向かった世界の諸問題について、環境問題をライフワークとして取り組んでいる初代キャスターの国谷裕子氏は、人々が内向きになって諸問題への意識（＝関心）が低下したことが今の状況を招き、課題解決のコストばかりを語るのではなくコストをかけることで得られるベネフィットに注目しなければならない、と言及していました。

そして、これからの課題解決のためには、「ありたい社会・ありたい地域を目指して多くの人を巻き込んだ地域の合意形成をつくることが必要」とも指摘していました。

世界が今抱えるグローバルな問題がテーマの番組でしたが、住んでいるまちなかの緑と重ね合わせて考えると共通点があるように思えました。

◆

街路樹の倒伏による事故や都市の再開発に伴う樹木伐採問題など、まちなかの緑に対してさまざまな意見や諸課題があるなかで、今回のような小さな取り組みが人々の興味や関心を喚起し、理解の輪を広げて合意形成につながって行けばと期待しています。

## 建設業年度末労働災害防止強調月間

### 本月間：令和６年３月１日～31 日

建設業年度末労働災害防止強調月間は、完工時期を迎える工事が増加し、さまざまな作業が輻輳するこの年度末に注意を促し、無事故・無災害で新年度を迎えていただくことを目的に、建設業労働災害防止協会の主唱、厚生労働省、国土交通省の後援で毎年行われ、関係企業への周知が図られています。

建設業における労働災害は、長期的に減少傾向にあるものの墜落・転落災害は、依然として死亡災害の約４割を占めており、一層の防止活動が求められています。

詳細は建設業労働災害防止協会のホームページをご覧ください。

## 能登半島地震被災会員等への義援金

能登半島地震による災害は、規模や範囲が広範にわたり、会員各位の被災状況は未だ詳細を把握しかねる状況ですが、会員等におきましても被災された方々がおられます。このため、日造協は、被災会員等に対する義援金を募集することといたしました。実情をご賢察のうえ、ご協力をお願いいたします。

募金名：能登地震義援金　額及び口数：一口１万円
振込先：三井住友銀行麹町支店　普通　7177749
一般社団法人日本造園建設業協会義援金口
締切日：2/29㈭

# 植栽基盤診断士認定試験を実施
## 全国で活躍する資格者が1,800名間近

植物が良好に育つ土壌環境を整える専門家「植栽基盤診断士」の資格制度は、日造協が2003年に創設し2023年で21年目となる。

今年度の認定試験は、「学科試験」を9月17日㈰に全国5会場で実施し、学科試験に合格した方が次に挑む「実地試験」を11月9日㈭～11日㈯に東京会場、11月15日㈬に愛知会場、11月30日㈭～12月1日㈮に福岡会場で実施した。

認定試験（実地試験）の合否を、「植栽基盤診断士認定委員会（委員長：高橋輝昌 千葉大学教授）」で厳正に審査し、結果は下表の通りとなった。

実技試験の合格者は、登録認定手続きをすることにより「植栽基盤診断士」と称することができる。資格を創設した2003年からの資格者の累計は1,791名となった。

さまざまな地域での発注要件にも取り入れられるなど活用が広がりつつあり、既存植栽地の土壌の育成管理や、植栽予定地の現況調査と診断に基づき発注者等へ明確なデータを示しながら改良提案と具体的な処方を施工性・経済性を考慮して技術提案していくなどの活躍が期待される。

## 合格者一覧　新たな診断士61名に

2023年度植栽基盤診断士の合格者は次の通り（受験番号順）。

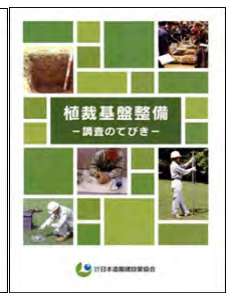
**【北海道】**坂本俊隆（坂本庭園）
**【青森県】**野村貴子（下道建設㈱）
**【宮城県】**髙橋祥二（㈱泉パークタウンサービス）
**【茨城県】**草間敦（茨城県県南造園土木協業組合）
**【埼玉県】**横山徹（㈱横山園芸）、醍醐貴義（日本植物園㈱）、吉村寿志（㈱テラヤマ）
**【千葉県】**角田優佳（植忠造園土木㈱）、猪苗代勝之（鎌ヶ谷造園土木㈱）、秦邦恵（みかど造園㈱）、佐藤陽平（㈱ウキガヤ）
**【東京都】**岩佐遥花（加勢造園㈱）、渡邊美央（㈱富士植木）、森幸太郎（㈱涼風庭苑）、山本有佳里（㈱和泉園）、相島健介（日産緑化㈱）、濱口雄悟（㈱柳島寿々喜園）、岸みずほ（㈱富士造園）、松本啓吾（サンコーコンサルタント㈱東日本支社）、宮岸慎（雪印種苗㈱）、阿部亜沙美（㈱仙坐木）、野林太郎（㈱富士植木）、稲毛一成（㈱伍楽園）、都田哲雄（日産緑化㈱）、栗原裕也（㈱市川造園 東京作業所）、関口知昭（アゴラ造園㈱）、水田晃行（住友林業緑化㈱）、大川純子（住友林業緑化㈱環境緑化事業部）、高橋聡史（雪印種苗㈱東京事業所）
**【神奈川県】**佐藤一将（石井造園㈱）、三村佑美佳（㈱石勝エクステリア）、田口直樹（㈱田口園芸）、小島宏海（藤造園建設㈱）、藤代恭平（JFE東日本ジーエス㈱）
**【山梨県】**内田治男（㈱富士グリーンテック）
**【岐阜県】**永池洋（㈱庭萬）、纐纈和也（㈱校和造園）、角谷真（㈱さかいファーム）
**【愛知県】**林賢明（ヤハギ緑化㈱）、深町彰恵（㈱ガーデン知多）、山田夏子（大島造園土木㈱）、神谷通治（深津園芸㈱）
**【京都府】**小島一芳（㈱小島庭園工務所）
**【和歌山県】**清原直樹（㈲三山造園）
**【福岡県】**井亀永進（㈱執行茂寿園）、山本真理絵（西武造園㈱ 中国・九州営業所）、安永直人（㈱九州緑化産業）、福島友香（木下緑化建設㈱）、原伸年（木下緑化建設㈱）
**【佐賀県】**原口高志（㈱鵜池造園）、江頭和人（㈱鵜池造園）
**【長崎県】**田雑孝史（㈱庭建）
**【熊本県】**酒見一幸（㈱森田緑化造園）、水上紗智子（㈲ナカタガーデン）、古川正弘（㈲寿造園）
**【大分県】**柿本雅子（㈱栗木精華園）
**【宮崎県】**赤阪幸司（（一財）みやざき公園協会）、池田政志（㈱馬原造園建設）、髙野悠（（一財）みやざき公園協会）
**【鹿児島県】**松本大輔（環境開発㈱）
**【沖縄県】**上原康嗣（宮古森林組合）

# 植栽基盤整備関連の書籍を大幅改訂

日造協は「植栽基盤整備ハンドブック」（第5版・2017年発行）と「植栽基盤整備－調査のてびき－」（第3版・2013年発行）を大幅改訂し、今春発刊の予定だ。

### 大幅改定で“より分かりやすく”

「植栽基盤整備ハンドブック」は、実際に造園植栽の現場で植栽基盤整備を実践する造園技術者が、植栽計画地の環境や現状土壌調査と診断を行い、植物の良好な生育に必要な改善方法を提案するための参考となるよう取りまとめたものである。




「植栽基盤整備－調査のてびき－」は、植栽基盤の調査・診断の主要項目である土壌断面、土性・土色、土壌硬度、透水性、化学性（pH、EC）の調査方法をより詳しく解説したものである。

今回の改訂では、植栽基盤整備を行う意義と現場での調査→診断→評価→整備方法の提案の流れをより分かりやすく解説するため目次構成の見直しを行うとともに、近年増加している造成地や既存植栽地の樹木の生育不良原因ともなる土壌と根系の関係や新たな工法・資材等について加筆する。

また、植栽基盤整備の用語や整備目標や判定基準の数値等についても、関連書籍との整合を考慮し、技術者にとっても分かりやすい内容となるよう心掛けた。

### 改訂の背景

持続可能な社会づくりに緑地の存在は欠かせないという認識が高まりつつあり、その緑地を構成するための植栽整備や管理は大切なものではあるが、「なるべく人の手をかけない自然が良い＝省管理」というような間違った認識が存在するのも事実である。

さらには、必要な管理を怠ることで、安全・安心の生活空間が非常に危険な空間になることも実際に起こっている。

適切な植栽基盤を整備するために、基本となる事柄を網羅してきたが、時代とともに植物や緑地の在り方や利用方法が変容していることもあり、今般改訂するに至った。

グリーンインフラをはじめとする緑地の社会資本が、生活の基礎として存続し、地域の緑地のあり方や一般の市民の生活を守っていくために、植物の生育環境に関心を持っていただき、生育環境が健全である必要があることをぜひ多くの方々に知っていただけたらと切に期待する。

本書は、2024年度の植栽基盤診断士補研修会から使用するため、講師などの関係者には事前に修正箇所の解説や講義のポイントについて改めて周知・説明する予定である。

# 街路樹剪定士指導員研修会 群馬で開催

「街路樹剪定士」の資格制度を設立し25年が経ち、これまで約15,000名の資格者を認定してきた。

「街路樹剪定士」は、街路樹の機能と効果を熟知し、街路景観の創出維持に寄与するもので、多くの自治体の発注要件や入札要件に活用されている。

街路樹管理者の「街路樹剪定士」に対する認知度が上がるとともに、資格者への期待と責任も大きくなっている。また、街路樹は景観や住環境に対する役割も大きく、市民の関心も高まっている。

今回、開催した研修会は、「街路樹剪定士」を指導し、各地の街路樹管理者からの管理手法や景観形成の相談にも対応できる「街路樹剪定士指導員」を養成するためのもので、同時にすでに指導員として活躍されている方が再度研修を受け知見を広める街路樹剪定士指導員スキルアップ研修会も開催した。

受講するためには、支部の推薦を受ける必要がある。

1月29日㈪～30日㈫に群馬県支部の協力のもと㈱山梅の事務所で学科研修を実施し、群馬県太田市内において実技研修・実技試験を実施した。

指導員研修会は8名、スキルアップ研修会は5名が受講した。

研修は、1日目に剪定技法や安全、指導員の役割などの学科と、実技講師による見本剪定の解説と墜落制止用器具の取り扱い、剪定実習を、最後に地域における街路樹の実情や剪定手法についての意見交換を行った。2日目は実技試験でケーススタディに従いモミジバフウとヤマモモを剪定した。

実技の様子㊧と講義を行う吉村氏と大場氏㊨

実技の講師は、吉村知泰氏（㈱吉村造園）、大場二郎氏（㈱大場造園）、菅原浩人氏（大森造園建設㈱）、根本喜代孝氏（㈱根本造園）、学科は、卯之原昇氏（資街制度委員長・㈱昭和造園）と本部事務局の野村徹郎技術アドバイザーに担当していただいた。

実技試験の採点結果をもとに今月開催する街路樹剪定士認定委員会（濱野周泰委員長）において合否判定を行い、新たな指導員が誕生する。

学会の目・眼・芽　第140回

## 九州は温暖化の最前線、悩ましいクスノキとシマトネリコ

（公社）日本造園学会理事　九州大学芸術工学研究院教授　朝廣 和夫

日本造園学会九州支部は1993年に設立されました。その理念には、産官学民の協同を掲げています。

この理由は造園学の研究者が九州に少ない事情と共に、実学であること、そして、顔の見える関係を大切にしてきたからです。

さらに特徴的なのは、支部大会を毎年、各県持ち回りで実施しています。これが実現できているのは、ひとえに日本造園建設業協会の総支部と各県のネットワークの支えが大であり、ここに感謝を申し上げます。その他、ランドスケープコンサルタンツ協会九州支部、各造園関連団体、そして、行政機関の関係者にも御礼申し上げます。

◆

ここで2つの樹木について執筆します。一つはクスノキです。長寿の樹木で、鹿児島の蒲生の大楠や佐賀の武雄の大楠は見事です。この旺盛な生命力は大切にされ、福岡では市の木として都市緑化に多用されてきました。

しかし、半陰樹で鳥散布であることから里地・里山利用の放棄された荒れ地に、高い密度で発芽・生育する場所があります。

福岡市内の平地の自然植生はシイ・カシ・タブです。シイは100年程度で倒木するものがあり、タブの勢力はクスに劣ります。

成立したクスノキ林は、数百年維持されるでしょう。特別史跡水城跡では、遺跡の保存のために伐採・剪定を開始しました。このような樹木は大木に育てたい。しかし、場所性の再考が求められます。

◆

次にシマトネリコ、南方の外来種です。福岡では1980年代から植栽が見られるようになり、2000年に入り大変ポピュラーになりました。その明るい葉っぱ、白い花は、マンションやショップのイメージにマッチし、強い樹勢により条件の悪い土壌でも育つからです。

しかし、生物多様性基本法が2008年に施行されており、風散布で周囲の灌木の植込みやフェンス沿いなどに実生が散見され侵略性があります。カブトムシが日中、採餌を続ける現象も有名で、看過できません。1980年代は、ホルトノキやクロガネモチなど、福岡らしい樹種選定への配慮がありました。

近年は、シンボルロードに植栽したり、北海道に原生林のあるカツラと混植する事例まで出てきました。管理の行き届かない住宅地では大きくなりすぎ伐採する事例も増加しつつあります。

◆

温暖化の進む時代において、クスノキと同じ轍を踏むべきではありません。地域らしさを守り、100年後の緑地像を見通すことが難しい時代です。

ここは、自然植生の群落構成に学び、安定した植物社会を基本としてはいかがでしょうか。

# 技術者制度の見直し方針で令和６年度から実施

## 造園施工管理技術検定　１級受検資格は実務問わず「19 歳以上」に

国土交通省は、「技術者制度の見直し方針」（令和４年５月、適正な施工確保のための技術者制度検討会）を踏まえ、受検資格等に関し、政省令等を改正し、令和４年 11 月に建設業法施行令の一部を改正する政令、令和５年５月に施工技術検定規則及び建設業法施行規則の一部を改正する省令及び関連告示を公布。

昨年７月には、指定試験機関に通知され、（一財）全国建設研修センターが実施する造園施工管理技術検定は、令和６年度から実施される。

今回の改正で、第一次検定は、学歴、実務経験年数に関わらず、一定年齢以上の者が受検できるようになった（表１）。

これにより、１級の第一次検定は 19 歳以上（受検年度末時点での年齢）であれば、誰でも受検できるようになった（２級は従前からの変更なし）。

第二次検定は、新受検資格に必要な実務経験年数が、１級・２級それぞれの第一次検定合格後、２級第二次検定（旧実地試験含む）合格後の実務年数となり、卒業の学歴や学科は問われない（表２）。

新受検資格では、旧受検資格における指導監督的実務経験は無くなり、受検資格要件には含まれなくなった。

なお、技術士、技能検定（管工事、造園）の資格は、新受検資格の要件には該当しない。技術士第二次試験の合格者は、土木施工管理技術検定の第二次検定から受検することができる。

実務経験に該当する工事の範囲は、建設業法に規定している建設工事の種類（業種）のうち、検定種目（資格）に該当する建設工事となり（表３）、原則として、工事毎に工事請負者の代表者等、または当該工事の監理技術者等の証明が必要となる。

なお、受検資格改正に伴う経過措置として、第二次検定は令和６年度から令和 10 年度までの５年間、「令和６年度からの新受検資格」と「令和５年度までの旧受検資格」のどちらの受検資格でも受検が可能で、令和 11 年度以降は、新受検資格のみとなる。

なお、令和６年度以降の試験問題は、第一次検定については、第二次検定の所要実務経験年数を学歴に拘わらず一定とすることから、各専門分野の基礎を確認できるよう、必要に応じ試験問題の充実を図り、第二次検定については、受検者の経験に基づく解答を求める設問に関し、自身の体験に基づかない解答を防ぐ観点から、設問の見直しを図ることとされている。

### 令和６年度申込用紙は 4/9 から販売

令和６ 年度 1 級造園施工管理技術検定申込用紙の販売は下記のとおり。

- ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ等：令和６年４月９日～５月 13 日
- 窓　口：令和６年４月９日～５月 21 日
- 申　込：令和６年５月 21 日まで
- 試験日：第一次検定９月１日㈰
  　　：第二次検定 12 月１日㈰

詳しくは、全国建設研修センター 1 級造園施工管理技術検定のホームページ（https://www.jctc.jp/exam/zouen-1/）をご確認ください。

表１　令和６年度以降の技術検定制度（改正概要）

**○１級の受検資格**

（改正前）

| 学　歴 | 第一次検定 | 第二次検定 |
|---|---|---|
| 大学（指定学科） | 卒業後 3年実務 | |
| 短大、高専（指定学科） | 卒業後 5年実務 | |
| 高等学校（指定学科） | 卒業後 10年実務 | |
| 大学 | 卒業後 4.5年実務 | |
| 短期大学、高等専門学校 | 卒業後 7.5年実務 | |
| 高等学校 | 卒業後 11.5年実務 | |
| 2級合格者 | 条件なし | 2級合格後 5年実務 |
| 上記以外 | 15年実務 | |

（いずれも指導監督的実務経験1年を含む必要あり）

（改正後）

| 第一次検定 | 第二次検定　※1 |
|---|---|
| 19歳以上（当該年度末時点） | 第一次検定合格後の特定実務経験※2（1年）を含む実務経験３年　等 |

※1　実務経験について、第一次検定合格後、
・特定実務経験(1年)を含む実務経験の場合は3年
・監理技術者補佐としての実務経験の場合は1年
・その他の実務経験の場合は5年
その他の受検資格等については、次ページ以降参照
令和10年度までの間は改正前の受検資格にて二次検定が受検可能

※2　特定実務経験とは、請負金額4,500万円（建築一式工事は7,000万円）以上の建設工事において、監理技術者・主任技術者（監理技術者資格者証を有する者に限る）の指導の下、または自ら監理技術者・主任技術者として 行った経験

**○２級の受検資格**

（改正前）

| 学　歴 | 第一次検定 | 第二次検定 |
|---|---|---|
| 大学（指定学科） | 17歳以上（当該年度末時点） | 卒業後 1年実務 |
| 短大、高専（指定学科） | | 卒業後 2年実務 |
| 高等学校（指定学科） | | 卒業後 3年実務 |
| 大学 | | 卒業後 1.5年実務 |
| 短期大学、高等専門学校 | | 卒業後 3年実務 |
| 高等学校 | | 卒業後 4.5年実務 |
| 上記以外 | | 卒業後 8年実務 |

（改正後）

| 第一次検定 | 第二次検定　※3 |
|---|---|
| 17歳以上（当該年度末時点）<br>※従前どおり（変更なし） | ・第一次検定合格後、実務経験３年<br>・１級第一次検定合格後、実務経験１年 |

※3　第一次検定合格後の実務経験について、機械種目の場合は2年
その他の受検資格等については、次ページ以降参照
令和10年度までの間は改正前の受検資格にて二次検定が受検可能

表２　技術検定制度の改正に伴う第二次検定の新受検資格

| 受検資格要件 | 必要な実務経験年数 |
|---|---|
| **○１級の受検資格** | |
| 令和３年度以降の１級 第一次検定合格者 | 合格後 ５年以上の実務経験年数 |
| | 合格後 特定実務経験（※１）１年以上を含む３年以上の実務経験年数 |
| | 合格後 監理技術者補佐（※２）としての１年以上の実務経験年数 |
| 2級第二次検定（旧実地試験含む）に合格した後、1級第一次検定に合格した者（1級第一次検定受検予定者を含む） | ２級合格後 ５年以上の実務経験年数 |
| | 2級合格後 特定実務経験（※１）１年以上を含む３年以上の実務経験年数 |
| 技術士第二次試験に合格した者（土木施工管理技術検定のみ） | 合格後 ５年以上の実務経験年数 |
| | 合格後 特定実務経験（※１）１年以上を含む３年以上の実務経験年数 |
| **○２級の受検資格** | |
| 令和３年度以降の１級 第一次検定合格者 | 合格後 １年以上の実務経験年数 |
| 令和３年度以降の２級 第一次検定合格者 | 合格後 ３年以上の実務経験年数 |
| 技術士第二次試験合格者（土木施工管理技術検定のみ） | 合格後 １年以上の実務経験年数 |
| 電気通信主任技術者証の交付を受けた者、又は電気通信主任技術者試験合格者であって1級又は2級第一次検定合格者（電気通信工事施工管理技術検定のみ） | 電気通信主任技術者証の交付を受けた後、又は電気通信主任技術者試験合格後１年以上の実務経験年数 |

表３　「実務経験」に該当する工事の範囲

令和6年度からの新受検資格における「実務経験」について（「土木」,「管工事」,「電気通信工事」,「造園」関係）
・実務経験に該当する工事の範囲は、検定種目（資格）に対応した建設業の種類（業種）に該当する工事になります。※下表参照
・複数の検定種目（資格）が対応する「建設業の種類（業種）」の工事の経験については、同じ経験を複数の検定種目の実務経験として申請が可能です。

| 検定種目〈資格〉 | 種別 | 土木工事業 | 建築工事業 | 大工工事業 | 左官工事業 | とび・土工・コンクリート工事業 | 石工事業 | 屋根工事 | 電機工事 | 管工事業 | 鋼構造物工事業 | 鉄筋工事業 | 舗装工事業 | しゅんせつ工事業 | 板金工事業 | ガラス工事業 | 塗装工事業 | 防水工事業 | 内装仕上工事業 | 機械器具設置工事業 | 熱絶縁工事業 | 電気通信工事業 | 造園工事業 | さく井工事業 | 建具工事業 | 水道施設工事業 | 消防施設工事業 | 清掃施設工事業 | 解体工事業 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １級土木施工管理 | | ○ | | | | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | | | | | | | | ○ | | | ○ |
| ２級土木施工管理 | 土木 | ○ | | | | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | ○ | | | ○ |
| | 鋼構造物塗装 | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | 薬液注入 | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| １　２級管工事施工管理 | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| １　２級電気通信工事施工管理 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | |
| １　２級造園工事施工管理 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | |

建設業の種類〈業種〉

## 日造協会員の SDGs

## 地域の在来種を活かした海浜の飛砂防止はまみどり工法

新潟県支部　グリーン産業㈱

SDGs「17 の目標」：該当目標

持続可能な開発目標 "SDGs " は 2015 年の国連サミットで採択され、17 のゴールと 169 のターゲットが掲げられています。日造協ニュースでも 2023 年新春座談会のテーマとして取り上げ、出席者の方々の取り組みをお話しいただき、「造園の仕事は “SDGs” もっとアピールを！」と紹介しました。そこで本号から日造協会員の SDGs について、適宜掲載いたします。

当社は、SDGs に関して、さまざまな目標に取り組んでいますが、今回は地域の在来種を活かした海浜の飛砂防止「はまみどり工法」をご紹介します。

### 飛砂防止緑化工法「はまみどり」

- レジリエンス力の高い海浜緑地（グリーンインフラ）の提供

気候変動により沿岸域で増加する飛砂や風食害防止に【はまみどり】を活用できます。堆砂環境に適応し、回復力のある植物群落を形成し安定的に砂浜や砂丘を保護します。

- 地域の自然を守る

【はまみどり】は購入した種や苗を持ち込まずに、埋土種子や根を含む海浜表土などを活用して地域由来の植生を回復させます。

- 土に還る製品で

土に還る製品づくりをしています。食用キノコの栽培後に発生する菌床など国内産有機質資源のリサイクルに貢献しています。包装袋も使用後に土に還る天然素材です。

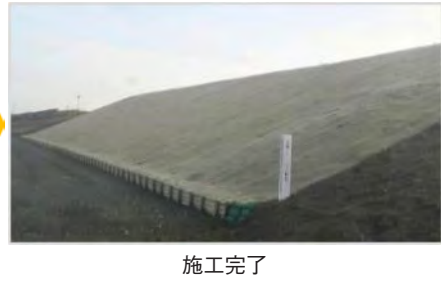
### 取り組みを行った感想

飛砂被害に悩む地域は全国各地にあり、緑化ですべての飛砂を止めることは容易ではありませんが、グリーンインフラという形で減災や環境に緑化を活かしていくことが求められています。

現在【はまみどり】は、全国 15 都道県で施工されており、今後は各地の風力発電事業における環境対策や地域貢献への採用に尽力していきたいと考えています。

飛砂対策は一度で完結するものではなく、地域とともに長い目で取り組んでいくことが必要と感じています。

はまみどりマット設置状況


施工完了

緑化状況

在来種スナビキソウに吸蜜に訪れるアサギマダラ

在来の海浜植物（左から、スナビキソウ、ハマエンドウ、ネコノシタ、シロヨモギ、イソスミレ、ハマボウフウ、ハマニガナ、ハマハタザオ）

ふるさと自慢 青森県

# ガイドブックに載っていない２つのホタテと釜臥山スキー場

青森県を思い浮かべた際に最も印象的であろうまさかり形の下北半島にあるむつ市から投稿いたします。

◆

日本三大霊場の一つである恐山が中心に位置し、周囲の山々はヒノキアスナロの産地である下北半島。三方を太平洋・津軽海峡・陸奥湾と性質の異なる海に囲まれている稀有な環境ゆえ水産物の種類も多く、海運交流を機に育まれた文化も多様性に富んでいます。今回はガイドブックには載っていないであろう情報を２つご紹介します。

◆

まずは海。近年大間のマグロが人気ですが、青森の水産物ならやはりホタテは外せません。

主に知られているのは陸奥湾で【ノシ】と呼ばれる施設で養殖されたもので、やわらかく強い甘さがたまらない逸品です。

鯛島や仏ヶ浦をはじめとした奇岩の数々

もと自衛隊の訓練施設であったスキー場は他に無い眺望が魅力

◆

しかし下北半島にはもう一種あるのです。それは夏期のみ流通する津軽海峡で養殖されている「外海地まきホタテ」というものです。激しい潮流が育てた貝柱は湾内の食感とは異なり、筋肉質で噛み応えがたまらないなレア商品です。

◆

貝の王様ホタテを２種
食べ比べの贅沢はいかが？

大間のマグロはもはや全国区となりました

下北のもう一つの見どころである山からは、港に向かってダイブする感覚がたまらない釜臥山スキー場をご紹介します。

陸奥湾に面した大湊地区には海上自衛隊大湊地方総監部があり、砂嘴に囲まれた独特な湾の中に艦艇が並ぶ姿は壮観です。そんな特異な景色に向かい滑走する爽快感は格別で、小さくとも素晴らしい体験ができるスキー場です。

北限のニホンザル

現在、下北地域では下北ジオパーク認定を機に積極的に情報発信をしております。今年の８月には日本ジオパーク全国大会が当地で開催されますので、書ききれない沢山の魅力は下北ジオパークのホームページ（QR コード）からご覧ください。

https://shimokita-geopark.com/about-geopark/

青森にお越しの際には、ぜひとも下北半島まで足を延ばしてみませんか？

青森県支部　山口 英勝（㈱ヤマカツ）

緑滴

# 庭

小さい頃の私にとって「庭」が私の全てでした。

私の実家の家の庭には小さな池があり鯉がいて、松の木や八重桜、クロガネモチ、ソテツ、カンナ、サザンカ、夏ミカン、ツツジなどの木々、一年草のトレニアなどが植えてありました。

◆

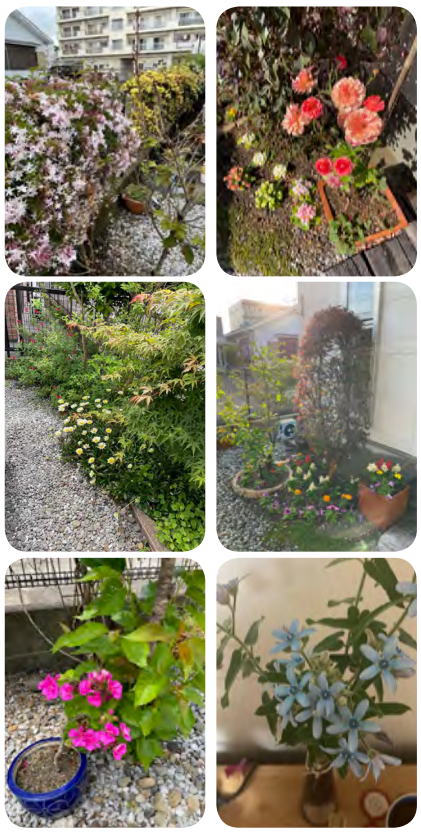
幼稚園の年長へ入園するまで、１日中１人で、庭にある植物を取ってきては、葉を刻んだり、実を潰してみたり、それを水に入れてみたりと料理の真似ごとをして、水遊び、砂遊び、ママごとをして遊んでいました。

そういう自然が当たり前だったためか、年を経るにつれて忘れていって植物に関わることがなくなっていきました。

◆

そして、家庭を持ち、家を持ち、庭ができると再び植物への想いが湧き上がってきて、今度は自分で自分の庭を作りたい！と思いました。

私は香水も好きなので、香りのする庭を作ろうと思いました。それから、とにかく香りのする木々の苗を買い植えていきました。モッコウバラ、ジャスミン、ニオイウツギ、ブルーガム、月桂樹、セージ、ハーブ等々。その他香りはしないけど気に入った植物（1 番好きなのはオキシペタラムです♪）を買ってきては植えました。



なかなか植え付いてくれない植物もあったり、失敗しながら、今もまだ理想を目指して作り続けています。

◆

現在は、フェンスに白色の花を付けるモッコウバラ、黄色のモッコウバラ、ジャスミンが上手くフェンスに這ってくれて、春になると一斉に同時に花を開き、モッコウバラの爽やかな繊細な香りと、ジャスミンの力強い甘い香りがブレンドされて何とも言えない良い香りを漂わせてくれます。私にとって春の香りです。

これからも「香りの庭」の完成を目指して追求していきたいと思っています。

宮崎県支部　永岡 里佳　㈲昭和造園土木

## 【造園用フルハーネスの購入方法】

造園の作業に適した「造園用フルハーネス」を会員特別価格で
ご購入希望の方は URL（http://shop.kousinen.com/）よりお申込ください。

## 委員会等の活動

●財政・運営部会
2/7　令和６年度事業計画及び収支予算案について審議
●広報活動部会
2/6　日造協ニュース２月号の内容確認、２０２４年６月までの記事構成について審議
●技術・技能・調査部会
12/21　施工管理のポイント（人材育成研修）用のテキスト「竹垣技法編」を編集
1/18　グリーンインフラ産業展実行委員会で、2 月開催の GI 産業展のブース出展・企画について審議
●安全部会
2/2 「(仮称）樹上での安全作業の手引き」の発刊に向け、建災防と編集会議
●全国造園デザインコンクール等推進部会
1/20 1/21　予備審査・審査会を神奈川県立相原高等学校で実施
2/1　日造協 HP にて審査結果を公開
●地域リーダーズ
1/24　２月の沖縄での勉強会の開催計画、来年度の事業計画について審議
●植栽基盤診断士認定委員会（試験部会）
●街路樹剪定士認定委員会（試験部会）
12/11　11 月までの実施分の採点と来年度の試験作成について審議
●植栽基盤診断士認定委員会
12/13　実地試験の合否判定、来年度の実施計画、テキスト編集について審議
●街路樹剪定士・緑地樹木剪定士認定委員会
12/20　11 月までの開催分の合否判定、来年度の実施計画について審議
●資格制度委員会
1/11、12　福岡会場、1/25、26　東京会場で、登録造園基幹技能者講習を実施
1/29、30　街路樹剪定士指導員研修会･スキルアップ研修会を開催
●登録造園基幹技能者講習委員会（試験委員会）
2/8　今年度開催分の採点と来年度の開催計画について審議
●女性活躍推進部会 経営者小会議
12/11　経営者小会議で昨年９月開催の高梨顧問と語る会のアンケートの課題に関する個別の提案について審議
12/20　出前講座小会議で出前講座について審議

## 事務局の動き

【2 月】
2 ㈮・中国総支部・支部との交流会
　・建災防との編集会議
6 ㈫・広報活動部会
7 ㈬・財政・運営部会
8 ㈭･登録造園基幹技能者講習委員会（試験委員会）
9 ㈮・運営会議
10 ㈯・全国造園デザインコンクール表彰式
13 ㈫・建設産業女性定着ネットワーク全国大会
14 ㈬・街路樹剪定士・緑地樹木剪定士認定委員会
15 ㈭・登録造園基幹技能者講習委員会
　・地域リーダーズ勉強会～ 16 日まで
20 ㈫・グリーンインフラ産業展～ 22 日まで
21 ㈬・岐阜県立国際園芸アカデミー出前講座
23 ㈮・第 32 回技能グランプリ～ 26 日まで
27 ㈫・植栽基盤診断士認定委員会（試験部会）
　・HB 編集委員会
29 ㈭・女性活躍推進部会
【3 月】
3 ㈰・AIPH スプリングミーティング～７日まで
4 ㈪・事業委員会
　・日本公園緑地協会　国際委員会
5 ㈫・広報活動部会
7 ㈭・技術・技能・調査部会
8 ㈮・街路樹剪定士認定委員会（試験部会）
　・日本造園修景協会理事会
13 ㈬・造園領域発展戦略委員会
15 ㈮・街路樹剪定士認定委員会
19 ㈫・財政・運営部会
　・全国建設研修センター評議員会
　・国際花と緑の博覧会記念協会　理事会
25 ㈪・建設業適正取引推進機構評議員会
27 ㈬・運営会議
28 ㈭・総支部長等会議
　・第２回通常理事会

**お詫びと訂正**　日造協ニュース 2023 年 11 月号（第 596 号）1 面の「第 39 回都市公園等コンクール」受賞企業、作品名のご紹介にて、本来であれば掲載すべきところ、受賞企業名、作品名に下記の記載漏れがありました。お詫びして訂正いたします。

**国土交通省都市局長賞を㈱テラヤマほか、「川口市立グリーンセンター再整備工事」（埼玉県川口市）が受賞。**

また、日造協ニュース 2022 年 11 月号（第 584 号）1 面「令和４年度都市緑化及び都市公園等整備・保全・美化運動における都市緑化功労者国土交通大臣表彰」の受賞者、「第 38 回都市公園等コンクール」の受賞企業、作品名に本来であれば掲載すべきところ、下記の記載漏れがございました。お詫びして訂正いたします。

**「令和４年度都市緑化及び都市公園等整備・保全・美化運動における都市緑化功労者国土交通大臣表彰」**
**寺山樹生氏（55）㈱テラヤマ代表取締役（東京都）が受賞。**
**「第 38 回都市公園等コンクール」**
**審査委員会特別賞に㈱テラヤマほか「川口市立グリーンセンター 遊育の森づくり」（埼玉県川口市）が受賞。**

**編集後記**　「新年造園人の集い」が４年ぶりに開催されました。毎年恒例の年頭行事であり、コロナ禍の中止を経て改めて造園界の方々が多数、集えることを嬉しく、高梨世話人代表のご挨拶を感慨深くお聞きしました。